

授業改善等に関する報告書（2019年度前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2019（前期）短大共通] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
実践入門セミナー（日コミ①）	大塚 みさ	アンケートへのご回答ありがとうございます。 予習復習の平均時間は1.54hと、レポート作成演習を中心とした課題への熱心な取り組みの様子が伝わってきました。今年はレポートが仕上がるペースも例年より10日ほど速く、大変感心しました。「自己成長の実感」についての平均値は大変高く、それについての自由記述欄のほとんどがレポート作成演習の達成度、またプレゼンテーション演習の成果に関する内容でした。独自設問の自由記述欄では、発表やグループワークを通して「共に学ぶ」ことができたかどうか尋ねましたが、賛同する学生が大変多くうれしく思いました。また、自由記述欄には4ヶ月間の学びの自己評価を書いてもらいましたが、一人ひとりが冷静かつ客観的に具体的に自己評価を行っており、全員が残りの1年半でさらに成長することを確信しました。 この授業での学びを、今後の短大でのさまざまな学びに生かして行ってください。
実践入門セミナー（日コミ③）	高瀬 真理子	レポートの書き方とそのために必要なこと、そこから派生するプレゼンテーションの基本を、とにかくひとりひとりが、実践しながら身につけようというスタンスで進めました。進度や、理解、工夫等も大方の学生には伝わったようですし、約8割の学生が成長を実感してくれました。
実践入門セミナー（日コミ④）	西脇 智子	この授業では、短大2年間の学びに不可欠な知識や技能の習得をめざして学びました。授業の理解度・説明のわかりやすさ・満足度は概ね良好で大変励みになりました。よりよい授業を目指して、教材の工夫をしていきたいと思えます。
ことばの科学	三田 薫	多くの受講者が内容に興味を持って受講してくれたこと、また内容をほぼ理解できたことを知り、うれしく思います。「毎週限られた時間の中で小レポートを完成させる力が付きました。」「街中やテレビで授業中の内容を聞いたとき、興味関心がもてるようになった。」といったコメントをたくさんいただき、この授業の目的が達せられたと感じています。
ユニバーサルデザイン	西脇 智子	この授業では、バリアフリー化を推進してきた「モノ・ひと・サービス」について学びました。授業の理解度・わかりやすさ・満足度は概ね良好で大変励みになりました。よりよい授業を目指してブラッシュアップしていきたいと思えます。
インテグ・イング a（4クラス）	飯泉 恵美子、 レビー、ロバート・C	授業に対するコメントと評価をありがとうございます。みなさんのおかげで、いつもこのクラスを楽しみに過ごすことができました。今回のクラスでも、改善点や、説明にもっと時間を割いた方が良さそうな個所をいろいろと見つけることができましたので、ここは改善強化します。ディクテーションは、スペリング、ヒアリングだけでなく、英文法の復習にも使えます。英語が苦手な人は毎日少しずつ進めましょう。後期はいよいよホリデーカードやコメントを世界に発信していく授業に入ります。一緒に頑張ってください！
インテグ・イング a（6クラス）	三田 薫、 ワインダー、グレゴリー・ジョン	「日本語を英語に書きやすくする考え方がわかった。」「英文を耳で聞いただけで書けるようになったのでよかったです。」「各国の今の現状を授業を通して知ることができて良かったです。」といったコメントをいただき、皆さんの研鑽力、国際的視野が高まったと感じています。前期は授業のペースが速すぎたところがあるので、今後改善したいと思います。
インテグ・イング a（7クラス）	久保田 佳枝、 ワインダー、グレゴリー・ジョン	アンケートにご回答ありがとうございます。日コミ・英コミ混合クラス、また短大の共通必修科目ということで、英語に対する苦手意識がある学生さんには大変な科目だったと存じています。かなりわかりやすく説明をしていたつもりでしたが、わかりにくいと感じた学生さんもおられたようですので、大変申し訳ありませんでした。来学期はもっと理解が深まるように説明で参りたいと思いますので、わかりにくい場合には、是非ともその旨をお伝えいただけたらありがたく存じます。どうぞよろしくお願いたします。
インテグ・イング a（1クラス）	霜田 敦子、 レビー、ロバート・C	学習することがたくさんあって目まぐるしい授業でしたが、みんなよく頑張ってくれたと思います。皆さんがよく準備をしてきたのは驚きで本当にやりがいがありました。前期で英語の基礎力が付いてきたと思いますので、後期のiEARNのプロジェクトはきょうまくいくでしょう。クラス全員で協力していきましょう。私も全力でサポートします。アンケートの結果で「自身の成長が実感できましたか」と「この授業に満足しましたか」の項目で「あてはまる」がそれぞれ70%でした。後期は100%の学生が「あてはまる」と感じられように、もっと学生一人一人に気を配らなければと思いました。後期も一緒に頑張ってください！
インテグ・イング a（3クラス）	飯泉 恵美子、 ワインダー、グレゴリー・ジョン	授業に対するコメントと評価をありがとうございます。みなさんのおかげで、いつもこのクラスを楽しみに過ごすことができました。今回のクラスでも、改善点や、説明にもっと時間を割いた方が良さそうな個所をいろいろと見つけることができましたので、ここは改善強化します。ディクテーションは、スペリング、ヒアリングだけでなく、英文法の復習にも使えます。英語が苦手な人は毎日少しずつ進めましょう。後期はいよいよホリデーカードやコメントを世界に発信していく授業に入ります。一緒に頑張ってください！

[2019（前期）短大共通] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
文学 a	佐藤 辰雄	①欠席回数が多いのは、受講生の殆どが就活に励む2年生で、1年生は二人に過ぎなかったことも影響しよう。 熱意ある学生も少なくなかったが、今年度は受講態度の面で極めて残念な学生が目についた。D評価が7%と例年に多く多かった。 これを前提に学生のアンケート結果を見ると、回答してくれた学生は平均以上～優良な層の人達、と判断せざるを得ない。根拠は以下の通りである。 ②IIの教員の授業運営がなべて好評でその指摘は的確である。Q13更に学びたいやQ4授業理解度、Q15授業満足度が軒並み高い評価はそうした層の学生を推測させる。 ③Q14自己採点が3.33とやや高目なものとした自信の表出だろう。教員の評価は全体的には3.08と低目で、B以下の学生比率が62%に及ぶあたりにも上記の判断を裏打ちしている。
女性と心理	大倉 恭輔	ジェンダー関係について理解が得られたことへの感想が比較的多いようです。「女性にとっての心理学・心理学が女性をどう扱ってきたか」などは、この授業のポイントのひとつなので、役だったのなら何よりです。 どんな教員も、「何をどこまでできていないか」を知らせないと、次のステップを示すことができません。 そういう趣旨を理解してもらえると助かります。
日本語表現法 a（日コミ①）	佐藤 辰雄	①2限の授業であるけれどQ1欠席回数が0.24と極めて少ないのは受講生の出席に対する律儀さを示している。 ②教員の授業運営に関する大問II全てが低目だからこそだろうか、Q11成長実感やQ15授業満足度が乏しかった。 ③Q14自己採点が3.35は教員からの評価3.47よりやや低いと言っても、これは強ち学生達の遠慮した数字とは言えない。 今年の学生の特徴は、きちんと事前学習をして授業に望む層が薄く、持続的な学習習慣に難ありと評せざるを得ない層が3割以上いたこと。これも例年でないことだった。 日本語コミュニケーション学科の学生としてしっかりした日本語表現を修得する、この点を重視する教員と学生とに径庭が生じたとするなら、「対機説法」の用心深さで意欲を掻き起こしつつ、実力を向上させる工夫＝永遠の課題が必要だという総括になろうか。
日本語表現法 a（日コミ②）	大塚 みさ	アンケートへのご回答ありがとうございました。 予習復習の平均時間は1.10hと、課題への熱心な取り組みの様子が伝わってきました。 一方で「自己成長の実感」については予想より低い平均値でした。しかしそれについての自由記述欄には要約の技量が高まったという意見が多く書かれていたことから、みなさんの目標設定がやや高めで、自己評価が厳しいことがうかがわれました。パソコンスキル等とは異なり、日本語力は急に成長するものでもありませんが、少しでもそれを実感できるような工夫を凝らしたいと思います。 独自設問の自由記述欄では「日本語表現」についてさらに磨きをかけたいと思う点を書いてもらいましたが、漢字検定への取り組みや新聞を定期的に読むことなど、具体的で前向きな意見が多く見られました。 この授業での学びを礎に、後期の「自己表現法」でさらに力をつけていきましょう。
日本語表現法 a（日コミ③）	西脇 智子	この授業では、日本語を正しく理解し、表現する力を磨くことを目指しました。授業の説明のわかりやすさ・満足度は概ね良好で大変励みになりました。とくに要約ドリルへの取り組みでは、さらに理解度を上げるための工夫を加えていきたいと思っています。
リスクマネジメント	増田 貴之	授業の内容に関する設問はいずれも1が最も多く1と2の合計で89~100%となり、概ね履修生に満足できる授業が提供出来たと考える。ただ年々取り扱うべきリスクが増加し、前期だけでは収まらなくなっている。大学には、引き続きこの授業の通年化を強く希望致したい。 またリスクマネジメントは短大・四大や専攻の別なく、現在の日本人女性全員に必要な安全教育だと考えており、入学時のオリエンテーションなどを利用して、新入生全員に要点だけでも教授する機会を頂ければ有難い。
書道	和田 朱美	硬筆と毛筆が半々という変則的な授業形態で、初めての取り組みであったため、教える側も教わる側も少し戸惑いがあった。 かなり忙しい授業であったが、学生もよく集中して受講してくれた。 できれば硬筆のみ、毛筆のみの授業が理想で流れがつかみやすいと思う。 今後は、短い時間でそれぞれの特徴、形態をいかに理解させるかが大きな課題になると思う。 消化不良にならないように、興味を失わせないような授業の展開を常に考えていきたい。 今期は国立新美術館にての書道展を鑑賞させ、そのレポートを提出させた。それも含めて、学生の満足度は高かったようなので、今期を土台に更に自発的な学習を行える環境を整えたい。

[2019（前期）短大共通] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
実践入門セミナー（日コミ②）	佐藤 辰雄	①Q1欠席数が0.38回と低かったのは1年生だからということよりも学生達の律儀さ勤勉さの賜物だろう。出席状況と言い課題への取組みと言い、出せとは過褒に過ぎようか。 ②とは言え、教員の授業運営が余り良質でなかったらしいことは、押し並べて大問Ⅱの評価が低い点に示されている。それはQ11成長実感やQ15授業満足度とも連動していようが、教員側にどんな不足があったのか、と申し訳なく思う。 ③Q14自己採点も3.25とかなり控え目なのも前述の延長線上に位置するのかわからないが、教員の目には3.75と上出来に映っている。上位・中の上の層が厚かった。
実践入門セミナー（英コミ①）	大倉 恭輔	いわゆる「スタディ・スキルズ」の授業として、標準的な内容とレベルでやっています。（そういうテキストをいろいろと参考にしして、授業を組み立てています） なお「難しい」ということですので、次年度以降はさらに考えてみます。
実践入門セミナー（英コミ②）	久保田 佳枝	アンケートにご回答ありがとうございます。必修で1限目という科目で大変だったかと思いますが、比較的欠席も少なく、全体的には課題をきちんとこなしてくださった学生が大半でした。ありがとうございます。今学期は1年生の春学期でしたので、短大で授業をこなしていくために必要な課題をいくつも取り組んでいただきました。興味のない課題もあったかと思いますが、授業のひとつですし、また課題は他の科目や就活にも役立つものばかりですので、始めから諦めずに取り組んでいただけたら嬉しいです。
実践入門セミナー（英コミ③）	三田 薫	「パワポの使い方やレポートの書き方、効率的な勉強の仕方、よくわかりました学べました。」「課題を提出期間内に提出するために、自ら計画を立て、学習する力が深まった。また、下田歌子先生についての理解力も深まった。」などのコメントをいただき、全体的に皆さんの行動力や研鑽力が上がったと感じています。
実践入門セミナー（英コミ④）	萩野 敏	昨年まで担当する科目の中では欠席や遅刻が目立つ授業でしたが、今年はそのようなことはありませんでした。基本的に昨年と同内容・同形式で進めたのですが、評価には違いが見られました。昨年は全体平均を上回っていた「この授業を通じて、自分の成長が実感できましたか？」の項目は、全体平均をやや下回った一方で、総合満足度は昨年から大きく上昇し4.31と高めの値となりました。受講者の質の変化を示しているのだろうと感じました。
日本語表現法 a（日コミ④）	高瀬 真理子	共通に要約のワークを課して、その合間でオリジナルな授業を展開するようなくみでしたが、学生たちがまじめで意欲的なので、大方は、その中から自分にとって必要なものをきちんと認識し、自己の成長を認めながら、さらなる向学心を見せています。 教員としては、そういう姿勢にこの先も期待を寄せていきたいと思っています。
ファッション文化史	石上 美紀	以下の点について今後、特に改善したいと考えております。 予習、復習の取り組みへの説明が不足していたと思われること 双方向授業にしやすい工夫 声や言葉の聞き取りやすい発声を心がけること
情報リテラシー1 a（英コミ④）	飯泉 恵美子	就職すると当然のようにパソコンを使います。 美しく、正しい文書を作成できる力は仕事で欠かすことができません。 このクラスをスタートにして、生涯活用できるパソコン力を身につけることができたと思います。 クラスの課題は量もあり、なかなか厳しかったはずですが、ひとりひとり、とてもよくがんばったと思います。

[2019（前期）短大共通] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
情報リテラシー1 a（日コミ②）	久保 ちづる	<p>授業アンケートの集計結果から、最初に「Ⅰ. あなた自身について」について確認します。</p> <p>「Ⅰ. あなた自身について」では、「授業の欠席回数は0.38回」、「週あたりの予復習時間は1.28時間」、「授業が理解できた割合は81.2%」でした。また、「Ⅲ. 全体について」の「11.自身の成長を実感した」は、「とてもよくあてはまる」+「どちらかといえばあてはまる」が78.2%でした。この結果から、多くの皆さんが授業および事前事後学修に真摯に取り組む、自身の成長を実感したことが分かります。</p> <p>15回授業アンケートの「振り返り」にも31名の成長が綴られていました。次に、「Ⅱ. この授業の内容と方法について」について確認します。</p> <p>「Ⅱ. この授業の内容と方法について」の各設問と、「Ⅲ. 全体について」の「15. 授業に満足したか」の総合満足度とのクロス集計結果表から求めた値で見ることになります。次に示す値は「大変満足」または「どちらかといえば満足」と、「とてもよくあてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の値を合計し、授業の満足度を合わせて求めたものです。</p> <p>設問順に、「授業の進むスピードは適切であったか？」が65.6%、「説明は分かりやすかったか？」が78.1%、「双方向授業等に工夫がされていたか？」が68.8%、「板書・パワーポイント・配布資料は分かりやすかったか？」が71.9%、「教員の声や言葉は聞き取りやすかったか？」が71.9%でした。</p> <p>これらの結果を確認していきます。</p> <p>まず、「授業の進むスピードは適切であったか？」について。「スピードは適切であり総合的に授業に満足している」は65.6%でしたが、別途「スピードについてはどちらともいえないが総合的に満足している」を集計してみると12.5%でした。このことから、授業のスピードの感じ方が総合的な授業の満足度に影響するものではないことが分かります。理由のひとつとして、皆さんが自身のPC利用経験・スキルと勘案した結果ではなからうかと推測します。これに甘んじることなく、「じっくり」かつ「素早く」授業を進められるようになりたいものです。</p> <p>次に「双方向授業等に工夫がされていたか？」について。集計結果の68.8%を残念に思いました。毎時間終了時にmanabaアンケートで質問や要望を聞き、回収した質問や要望についてはスライドを作成し、次回授業開始時にフィードバックしました。タイピング練習の啓蒙・強化の際、responアプリを使ってクラス全員の進捗状況を3回確認し合いました。Word機能のポイントを網羅した確認問題（実技テスト）を2回実施し、個別に添削して翌週返却し復習してもらいました。14回目授業の期末試験も同様です。</p> <p>「板書・パワーポイント・配布資料は分かりやすかったか？」が71.9%。印刷して配付せず、manabaコンテンツにアップしましたが、活用されなかったのか、これも残念な結果です。もっとアピールすべきであったのかもかもしれません。</p> <p>教員の声や言葉は聞き取りやすかったか？」が71.9%。説明中に教室内に話し声が聞こえることが度々ありました。何度か注意したものの、私語ではなく教え合っていたため注意は最小限にとどめました。このことが原因の一つであると思っています。他の受講生のためにも、この事にきちんと向き合って注意すべきであったと反省しています。</p> <p>「18.自由記述欄」には要望事項はありませんでした。</p> <p>最後に。</p> <p>この授業の目標「本学の情報環境を理解したうえで、文書作成の基本となるワープロソフト“Word”を習得し、同ソフトの検定に合格できるレベルを目指す」に向けて取り組んできました。検定受験者全員が合格することができ、一つの目標を達成することができました。さらに、15回授業アンケートの「振り返り」に皆さんが記述された内容からも、皆さんが「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養う【研鑽力】」と「課題解決のために主体的に行動する【行動力】を身につける」という科目の到達目標も達成したと言えます。</p>
キャリア英語 a	飯泉 恵美子	<p>授業に対するコメントと評価をありがとうございました。みなさんのおかげで、いつもこのクラスを楽しみに過ごすことができました。今回のクラスでも（毎回のことですが）、改善点や、説明にもっと時間を割いた方が良さそうな個所をいろいろと見つけることができましたので、ここは改善強化します。</p> <p>予習課題と復習課題が毎回あるクラスだったので、かなり苦勞があった分、やりがいもあったと思います。</p> <p>英語は一生使えるツールになります。使う機会を絶やさないようにしてください。</p>
情報リテラシー1 a（英コミ②）	飯泉 恵美子	<p>就職すると当然のようにパソコンを使います。</p> <p>美しく、正しい文書を作成できる力は仕事の場で欠かすことができません。このクラスをスタートにして、生涯活用できるパソコン力を身につけることができたと思います。</p> <p>クラスの課題は量もあり、なかなか厳しかったはずですが、ひとりひとり、とてもよくがんばったと思います。</p>
実践キャリアプランニング（日コミ）	板倉 文彦	<p>この授業の評価では「双方向授業等の工夫がされていたか」の数値が平均値を下回ったことが気になりました。学生自身の個人ワークおよび、学生同士のグループワークを中心とし、自身で考えることを主体としているため、教員側としてはファシリテートを意識してきておりやむを得ない部分も感じています。しかし、今後は質問したいときに質問できる状況を今以上に作っていきたいと思います。</p>
メディア論	大倉 恭輔	<p>授業資料のアップが直前になったりしたことは、申し訳のないことでした。お詫びします。</p> <p>基礎的な部分を学ぶ授業ですので、内容の若干の変更（追加・入れ替えなど）はありますが、資料の内容が大きく変わることはありません。その点を理解してもらえると助かります。</p>

[2019（前期）短大共通] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
フランス語 a	岡本 尚子	ほとんどの人が初めてフランス語を学習するということで、できるだけフランス語が身近に感じられるように授業を進めていきました。ほぼ全員が積極的に授業に参加していたので、良い雰囲気です。授業を進めることができたと思います。覚えることが多く、難しいと感じた人もいたと思いますが、最初はどうな人でも難しく感じるとは思います。前期のみ履修の人も含めて、是非しばらく我慢して勉強を続けてみてほしいなと思っています。
実践キャリアプランニング（英コミ）	板倉 文彦	このクラスの学生の皆さんは、欠席も少なく真面目に授業に取り組んで頂けました。今後も学生の皆さんの真剣さに応えられるようよりフレッシュアップしていきたいと思っています。また、このクラスの学生は将来の夢がはっきりしている人も多いため、より夢の実現に貢献できる内容を検討していきたいと思っています。
情報文化論 a	大倉 恭輔	回答ありがとうございます。 少しでも多くの映像を見てもらいたい・背景について理解してもらいたいという気持ちから、感想などを聞く時間が少なくなったと思います。 とはいえ、正面から感想を聞いても答えにくいと思いますので、なにか工夫を考えてみます。 映像を流しながらの説明の際、映像の音にまぎれることがあったのかと思います。注意していたのですが、今後は、素材の音自体を思い切って絞るなどしてみます。
生命と環境	阿■ 貞三	わかりやすく説明をしました。
書道 a	和田 朱美	清書をしながらの回答になってしまったので、回答率が低かったのが残念である。サンプル数が少ないので正確ではないかもしれないが、この結果に学生は満足しているものと判断した。 ただし、欠席が例年に比べ多かったのと、予習復習の時間数の不足が課題として挙げられる。授業終了後も引き続き興味を持って取り組める内容を紹介するのが最善と考える。 今期は、硬筆書写検定の受験を勧めたところ、希望者がいたので11月受験の指導をする予定である。
国際関係論	大島 幸治	国際関係論はこれから社会に出て行く学生には必須の知識であるにもかかわらず、世界史や地理の知識を前提とした上、マクロ経済学や金融の基本的知識、軍事に関する問題にも言及せざるを得ないため、学生と討論しながら議論を進めるといった講義スタイルをとることが困難である。そのため、この授業においては、高校までの知識レベルをはるかに超えたレベルの最新情報を提供することを目的として優先させたつもりである。情報をただ聞き流しにすることがないように、毎回、講義する内容について活字に起こしたスクリーンを用意し配布している。内容は、毎年、最新のものに更新しているが、今年度は、学期中にも、史上初の米朝首脳会談もあり、授業時点で最新ののものになるよう最善を尽くした。それと同時に、偏った視点になることがないように、一般に流布しているNEWSWEEK 誌だけでなく、FOREIGN AFFAIRS誌をベースに専門研究雑誌の見解も取り入れ紹介した。 プリントには、関連する読書案内を詳細に付けているため、学生が興味を持った部分について、さらに踏み込んだ情報収集ができるように便宜を図っている。読書案内にしたがって図書館で検索した学生も見られたが、基本的に最近、刊行された書籍に限って紹介しているため、必ずしも図書館に収蔵されていなかったのが残念なところである。とくに北朝鮮問題では、米政府を主導していると言われる軍事問題関連の論説を紹介したため、邦訳がまだない最新のものが多数含まれてしまった。 学生は、国際問題についてテレビやインターネットでも映像資料を見ているため、授業内で映像資料を受身的にただ眺めるというのは、学生の主体的な授業参加を阻害する側面もあると考え、ひとつの試みとして最小限にとどめてみた。むしろ教室内を歩き回りながら、学生自身の将来にとって大きな懸念材料となりそうな問題について、学生と眼を合わせながら熱く語りかけたつもりである。 例年より少なめの受講人数であったせいもあって、質疑応答が十分できなかったにせよ、それなりに学生と目を合わせながら授業を進められたと思う。活発に討議をおこなうことは、小規模クラスで同様な授業展開ができる状況になったときの課題としておきたい。 学生の一部は、強い関心を示したことに強い印象を受けた。内容としてはかなり専門的なレベルにまで踏み込んだにもかかわらず、今年度においても、授業後に持ち込まれた質問のレベルは非常に高いレベルであったことにも感銘を受けた。また次回授業までに、自宅でプリントを読み直して復習した部分について質問にきた学生もいた。こうした学生の声を受けて、当初、シラバスで予告した内容から逸脱して議論を広げた部分もかなりあった。本学の学生が、国際関係についてこのような高いレベルでの理解と関心を示したことを担当教員として誇らしく思いたい。